

第2回陸上競技場兼サッカー場及び体育館基本構想検討委員会 議事要旨

1. 日 時 平成21年3月12日(木) 10:00 ~ 11:15
2. 場 所 栃木県庁本館6階 大会議室1
3. 出席者 委員 漆原委員(会長)、中村委員、黒後委員、星野委員、坂本委員、秋山委員、
五家委員

欠席者なし

4. 開 会

- (1)小曾戸スポーツ振興課長によるあいさつ
- (2)漆原会長によるあいさつ

5. 議 事

- (1)「基本理念・基本方針について」事務局から説明。
委員からの意見はなし。
- (2)「本県におけるスポーツの特性について」事務局から説明。
委員からの意見はなし。
- (3)「本県におけるスポーツ施設の現状について」事務局から説明。
委員からの意見はなし。
- (4)「現陸上競技場及び現体育館の課題について」事務局から説明。
委員からの意見はなし。
- (5)「陸上競技場兼サッカー場及び体育館の規模・機能について」事務局から説明。
委員からの意見は6のとおり。
- (6)その他
次回の委員会の日程については、調整の上、後日各委員に連絡することで了承。

6. 委員からの主な意見等

陸上競技場兼サッカー場

・交通アクセス方法を考えると、国際大会を本県で開催するのは非常に難しいことから、平成19年度の検討委員会の陸上競技場兼サッカー場の30,000席については圧縮しても良い。全国大会、国体を視野に入れた数の中で考えていくべき。

・費用対効果も重要な考え方だが、融通性のことを考えて、今後の変動に対応していくという考え方もある。費用対効果をどのスパンで見るとかということが大事。席数の多い少ないだけでは言い切れない。

・これからの国体なりその他の大会を考慮すると、芝生席は現実的ではない。個席までとは言わないが、全て固定席で整備してほしい。少なくとも20,000席以上でお願いする。

・スポーツがクラブスポーツに変わってきている中、スポーツをしない人等も含めて売店等で楽しめる施設があつてよい。

・陸上競技場兼サッカー場及び体育館には是非エレベーターを設置したほうがよい。

体育館、武道館、弓道場

・見る側の立場を考慮すると、例えばVリーグ等は全面を使用せず1面である。大きな施設を遠くから観戦するのは全然おもしろくないので、オーロラビジョンは必然的と思われる。また、可動席は必ず設置してほしい。

・平成19年度の検討委員会では4,000～6,000席であったが、固定席は4,000席無くても、可動席と合わせてその席数が確保されれば、使いやすい。また、可動席を増やした方が、県大会や関東大会レベルでは非常に使いやすい。バスケットボール4面という規模に対応した時の収容観客数としては、群馬県や北海道の規模が適正と思う。

・キャパだけの議論ではなく、4,000席あたりを目処として、安全面やバリアフリー等とセットで考えた方が良い。

・今年の夏の中学校のバレーボールの関東大会は群馬アリーナで行うが、メインアリーナ及び武道場をサブとして使用されると思われる。前回関東大会を行った山梨県もメインの体育館と武道場がバレーボールの競技場として使用されている。サブアリーナを関東大会等の試合で使用するならば、観客席はある程度必要である。

・サブアリーナをウォーミングアップ会場としてのみ使用するのか、それとも試合会場として観客席を1,000席設置するのか、単体で考えるのは難しい。また、大きな武道の大会をメインアリーナで行うのも可能であるのでメインアリーナ、サブアリーナ、武道館の3つを上手に運営していく視点でも検討することが必要。

・体育館と武道館の単体施設ではなく、経費の面でも圧縮できるし、いろいろな目的で総合的な利用ができるので、出来れば、体育館に武道場も兼ね備えたような施設が良い。

・国体などの弓道競技では、観客席がつくれる距離は30m程度であることから、平成19年度検討委員会の150席～300席程度が適切と思われる。